

令和6年度
学校関係者評価報告書



学校法人 国際総合学園
国際医療看護福祉大学校

「令和6年度 学校関係者評価」の実施結果と今後の課題について

学校法人国際総合学園 国際医療看護福祉大学校における「令和6年度 学校関係者評価」は、令和7年7月14日に学内自己点検評価委員 12名により自己点検評価を行い、評価項目内容に従い改善が必要な箇所を確認し評価した。それを基に令和7年7月28日に学校関係者評価委員として学外から4名の評価委員により実施し、教育実績や自己点検評価について意見をいただき、本書のとおり報告する。

なお、本校の自己点検・評価については、全国専門学校教育研究会の策定した自己点検・評価報告書「作成ハンドブック・作成マニュアル」を基本に、自己点検・評価を行い、不備な点等の改善について、今後の方向性を協議するとともに、次年度以降の取り組み課題とした。

令和6年度の学校関係者評価を受け一定の方向性を持って、学校評価を進めていくことにより、本校における質の保証・向上のなお一層の取組充実が図れるよう努めていきたい。

学校関係者評価報告書(「学校関係者評価委員会」報告)

令和6年度学校運営において教育目標として掲げている国家資格合格率及び就職内定率、退学率を振り返り目標達成までにあと少し及ばなかった点を次年度の課題として、自己点検・評価報告書の点検評価項目1～10を前年度と比較しながら取り組み状況や改善策等を報告した。これに対し、委員の皆様から学校運営状況や自己点検・評価項目に関する意見や評価をいただき、報告書にまとめた。

1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1) 建学の精神(教育理念)

教育理念について、学内では在校生に対して学生便覧(一部パットデバイスによる電子閲覧可能)に記載し4月のオリエンテーションで伝えている。教職員には職員会資料等で周知を図っている。また、学外の方に対してはパンフレットやホームページ上に学校長の挨拶を含め、建学の精神(教育理念)を掲載し公表しており適切である。

2) 教育目的・教育目標

教育目的・目標等が定められ明文化もされており、学校パンフレットをはじめ学生便覧やホームページ上でも公表がなされている。また、学科毎の保護者会等で、学校の教育実績や運営状況、教育目的・目標を伝え理解と協力をいただいている。

2 教育の内容

1) カリキュラム作成等

学科毎に教員及び業界関係者等で組織した教育課程編成委員会を設置し、教育・病院・施設等の有識者から意見をいただき職業教育に特化した実践的な教育課程の編成に繋げることができた。なお、教育課程編成委員会は年2回開催している。

2) 教授・学習プロセスの改善

学生による授業アンケートや評価に基づく学校側の改善活動は、教育上必要不可欠である。

学生の授業評価は、今後も実施して指導・改善していくことはもちろんのこと、結果に基づく教員面接や研修、授業参観を組織的に取り組み実施している。

3) 業界ニーズに対応した付加的教育

リメディアル(導入前、補習)教育については、多種多様な学生への対応及び学生個々の能力を伸ばすための大切な教育であることから、個別指導や課題別の一斉指導を実施している。また、一部学科では必修ゼミ形式などで対応している。今後も継続して実施していくと共に、授業時間割等を鋭意工夫し精度を高めていく。

4) 教職員の資質の維持や向上

教職員の資質を維持し、その専門性や指導能力の向上を図るためにも、教職員に対する研修は必要不可欠である。外部機関が実施する学会や研修、新潟総合学院が実施する研修には積極的に参加している。今後も専門的知識・技術の維持向上に向けた研修計画を進めて行く。

【2-12の改善】

全教員に対して授業見学が実施できていないが、年2回の学生授業アンケートの結果から問題のある教員へ個別面談を実施し授業改善に努めたている。

3 教育の実施体制

1) 教育環境の整備・活用

- ① 養成施設要件として、法的に設置が義務付けられている図書室及び関連図書の配置について整備されている。
- ② 引き続き感染症予防として、手指消毒、室内換気など感染対策に関する掲示を通して注意喚起を図っている。
- ③ 施設・備品等の定期的な点検・管理について、エレベーターの点検は定期的の実施され、また、学校特有の機器についても定期点検は実施されている。
備品等の管理については、備品台帳を備えている。
- ④ 防犯設備として防犯カメラの設置やセキュリティ会社を入れて管理している。

4 教育目標の達成度と教育効果

1) 教育目標の達成に係る取組と評価

- ① 学生の就職に関する目標、就職活動の記録、結果の検証・報告、実績の公表についての適切な取り組みは評価できる。
- ② 資格・検定・大会に関する目標、結果の検証・報告、合格者・合格率の公表についても適切な取組の評価ができる。
- ③ 退学率の報告・公表についても、適切に取組評価できる。ホームページ等で公表している。
- ④ 卒業1年後の就業の把握・公表については、対応が不十分であり、企業訪問や同窓会等を利用して、その把握に努める必要がある。
- ⑤ 学生の成績を GPA で確認できる成績評価指標を導入し HP で情報公開している。

【4-20の課題・改善】

全学科での卒業後 1 年の就業状況の把握は出来ていないが、臨地実習病院等であれば卒業

生の就業状況は確認している。今年度学科ごとに就職先より卒業生の就業状況調査をしていく予定。

5 学生支援

1) 学生支援体制の整備と組織的実行(入学前)

学校説明会や学校案内パンフレットなどで、入学対象者及びその方に関わるの方々に対して、教育理念・目的・目標等が明示され取得予定資格、受験予定検定、参加予定大会等が明示され育成人材像を説明している。また、入学対象者に対して、入学前の学習指導や学生生活のためのオリエンテーションを実施している。

2) 学生支援体制の整備と組織的実行(在学時)

担任による定期的な面談を実施している。また、臨床心理士のスクールカウンセラーがメンタルケアをサポートしている。一方では教職員に対しては教務会などで学生指導の状況などをみんなで情報共有する機会を設けている。学生の面談記録や指導記録は文書化され保管されている。

3) 学生支援体制の整備と組織的実行(卒業後)

校友会が組織されており、総会開催時には卒業生の活動状況を把握している。また、学校の周年事業など卒業生へ学校情報を発信している。なお、卒業生への職業紹介は、希望者が少ない状況であるが、今後は卒業後の支援を積極的に行っていくよう改善が必要である。

4) 上記以外の学生支援

学校情報は、保護者、高校などに定期的に発信されている。また、企業等に対しては求人依頼の際にリーフなどで情報発信している。

【5-7の課題・改善】

看護学科では今年度より AO 入試を始めるため、入学前の学習支援の対応を検討していく必要がある。

6 社会的活動

地域における社会活動や社会貢献、ボランティア活動については、人数制限をしながら実施できた。単位認定に関しては、養成要件のカリキュラムとして単位認定の対象とするのは困難である。

【6-5・6の課題・改善】

昨年度に比べると、ボランティア委員などを中心に活動が高まってきている。学園祭などを活用して地域への理解や交流の機会を提供していく。項目6については「失語症友の会」の運営を通して地域貢献を果たしている

7 管理運営

学校の管理・運営体制に関する評価項目は適切であった。特に被災経験を基に防災や非常時対策に対して文書化され、学生・教職員の安全安心を確保するための避難

訓練を実施している。

8 財務

- ① 年度予算の執行については、統一された規程に基づき対応されている。また、予算実績の報告書は毎月報告が義務付けされており、チェック体制が確立されている。固定資産や図書、物品の管理についても適切に行われている。
- ② 法人として健全な財務状況となるべく中長期で収支計画を立てており、適切に外部監査を受けている。
今後の改善施策として、現状で直ちに改善しなければならない大きな問題はないが、18歳人口の減少や高校新卒者の就職率など外部要因の変動による収支への影響に耐える財務基盤の構築を行っていきたい。なお、学校法人として収支計画を立てているため、情報提供も法人単位としている。

9 改革・改善

自己点検・評価委員会を設置し組織的に対応し、評価・改善を継続的に行っていく。また、自己点検・評価の結果を全職員で共有する機会を設けて行く。今後は、自己点検・評価の改善計画に基づく結果の検証を進める。

10 国際交流

国際交流に向けた取組がされている。留学生については、1名の留学生を受入れた。在籍している留学生の学習、生活指導については学内に適切な制度が整備されている。

【委員からの意見・評価】

・就職率のところで、救急救命士科の場合は公務員希望と病院救急を希望する状況から2つのコースに分けられたとの事ですが、病院救急への就職実績はいかがだったのでしょうか。また病院からの求人枠はどれくらいでしたか。

→病院への就職は3名。公務員が20名うち消防官が16名であった。病院からの求人は増えてきている。また学生は公務員試験を受けずに初めから病院への就職を希望している状況がある。そのため今後は公務員対策と病院救急対策に分けた運営が必要と考えている。

・今は外国人介護福祉士が増えていますが介護総合マネジメント学科には介護希望の留学生は在籍していますか。

→現在は全員日本人です。2年前に1名留学生が学んでいました。介護を目指す留学生は経済的に奨学金を必要としており、各施設等に案内しているが奨学金を出して介護の留学生を受け入れる施設等が見つからない状況。

・学生募集に関して苦戦しているようですが、看護学科についても苦戦していますか。大学においても看護学部の学生募集が苦戦している状況です。

→看護学科も募集は悪い状況です。コロナ禍以降医療系を目指す学生が減少しているように思われます。

・国家試験の合格率は全国平均並みと理解しました。学科ごとの定員充足率はどのようになっていますか。

→定員充足率については、前年比でも91.1%と減少している状況です。

・卒業生の就業先への定期的な訪問をしているかの評価が昨年度から改善しているが、どのような取り組みをしているか教えてください。

→就職先の多くが実習病院等であることから実習打合せ時に卒業生状況を確認しています。また、卒業生が学校を訪問してくることもある。病院施設等から求人に来校された際に話を伺うことができている。コロナ禍と比較して訪問できていると評価しているが、すべての就職先への訪問はできていない。

・報告からしっかり運営できていることが伺えました。実習病院としては学校がきちんと運営していることで安心して実習受け入れができる。学校と連携して実習病院としても学生を指導していきたい。

・授業アンケートから評価の低い教員に対して授業参観を実施できていない場合、授業を撮影して教員間で問題点などを共有することを検討してみたい。

→オンライン授業などもできるので、今後検討していきたい。

・入学予定者に対して学習指導・支援等が行われているかとの内容について、どのような支援を行っているかお聞きしたい。

→AO入試を今年度から看護学科で実施するにあたり、入学前学習の準備をしていきたいと考えている。他の学科については、すでにAO入試を実施しており、入学前学習についても実施できている。

・入学生の学生レベルにはばらつきがあり、入学後に必要な基礎学力を身に付けておく必要があるため入学前学習をしっかり準備してもらいたい。

・地域貢献やボランティア活動などは、どのようなことを実施されているのか伺いたい。

→卒業生を対象とした「ハナミズキ会」を組織し、医療関係の講演を実施している。また、小中学生を対象とした「おしごと体験講座」を実施し、関連学科の職業啓蒙を図っている。

・評価項目で「適切」の評価になっていないものを一つでも改善していくように取り組んでほしい。そのほかはとてもしっかりと実施されていると思う。

・人口減少や災害が多くなっている状況で、学生募集や教育実績をしっかり出していることと、様々なご苦勞があったのだらうと思われませんが、地域社会に必要な医療従事者を育成していただきたいと思います。

・沢山の評価項目がある中、学校としてきちんと取り組んでいただいていると感じました。また、評価が低い項目に関しても改善の取り組みを検討されており、これからもご尽力していただきたい。

◆学校関係者評価委員

No	所 属 役職名	氏 名
1	日本大学工学部 教授	片岡 則之
2	東北健康福祉株式会社 代表取締役	清水 一浩
3	総合南東北病院グループ看護部局長	窪 睦子
4	校友会会長	安田 公彦